

(別紙様式)

(A3判横)

# 平成28年度 学校自己評価システムシート (県立庄和高等学校)

目指す学校像	地域に根ざし、生徒それぞれの夢を育て実現させる学校
--------	---------------------------

重点目標	1 確かな学力の育成と指導力向上 2 進路指導の充実、進学実績の向上 3 生徒指導、特別活動の充実・推進 4 地域に根ざし、信頼される学校づくり
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	10名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	朝学習や小テスト、復習シートの活用等によって知識の定着は進みつつあるが、1日1時間未満の学習時間の生徒が大半を占める。生徒の学習意欲・学力向上のために教員の指導力向上と授業展開の工夫が必要である。さらに授業アンケートの活用、授業公開・研究協議を通じた授業改善が課題である。	○授業改善と授業力の向上 ○家庭学習の定着	①授業アンケートの活用。教科間を越えた授業公開・研修会を実施し生徒の主体的活動を引き出す授業を行う ②朝学習、週末課題の実施。復習シートの活用等により自主的学習を展開する。 ③学習状況改善へ向けた環境整備の研究を行う。 ④学年を中心とした計画的な学力向上・検定合格に向けた学習体制を確立する。	①ALの手法を活かした授業の展開ができたか 授業理解度・満足度80%以上 ②家庭学習時間1.5倍増 ③新しい学びの形を支えるためのICT等環境整備計画の策定。 ④英検・漢検3級全員合格。	①授業公開週間を活用しての各教科にて研究授業並びに研究協議を実施。生徒アンケートでの授業満足度はほぼ目標達成。 ②家庭学習時間については、今年度10月から平均で1時間近くアップした。合計時間について見ると上位と下位の格差が大きくなっている。 ③ラーニングコモンズという名称でICT機器を備えた部屋を整備した。 ④担当を学年から教科主導の体制に移して継続する。	A	・ALの手法を活かした授業研究について継続するとともに、評価についての基準を明確化する(→総合的探究の時間)が必要である。 ・授業アンケート・生徒アンケートの文言について再検討し、データを正確なものにすることが必要である。 ・学習スペース、大会議室活用の自主学習者の増加から、家庭学習時間の中に授業時間外の学習を含めて考える必要がある。
2	進路意識が低く「なんとなく・これでいい」といった進路選択をしている生徒も少なくない。保護者の意向も含め「こうしていきたい」というワンランク上の前向きな進路選択をさせるためにも、進路先の実態把握、研究が必要である。入学時からの計画的な進路指導、保護者会・職員研修会の実施等、3年間を見通した進路指導計画の策定・実行が急務である。	○進路意識の啓発 ○組織的進路指導の充実 ○個に応じた進路指導の充実	①3年間を見据えた新進路指導計画を策定・実施する。 ②進路ガイダンスや教員勉強会、研修を実施する。 ③保護者参加型の進路行事を企画・実施し、保護者に対しても啓発活動を行う。	①進路決定率95%以上。就職内定率100% ②将来の希望進路決定者1,2年生90%。3年生100%。 センター試験、一般受験、公募推薦受験者数30名。四年制大学進学者70名。 ③進路指導が充実していると考え保護者80%。	①目標達成 ②センター試験受験12名・一般受験8名・公募推薦42名・4年制大学進学者44名。第2学年生徒の28年中の第一志望宣言の取組み実施。 ③保護者アンケートによると、進路指導が充実していると考え保護者60%。	B	・今年度策定した「新進路指導計画」と「獲得させたいスキル(仮)」の連動が必要である。 ・外部模試の受験促進とデータの活用が必要である。 ・保護者の進路行事への参加数を増やすことによって、進路意識を共有することが必要である。
3	継続的な生徒指導の成果で落ち着いた学校となったが、自己の気持ちのコントロールや努力の継続性、挑戦する意欲はまだ乏しい。落ち着いた生活基盤は継続しつつ、「挑戦・自律・継続」できる力を育成する必要がある。また、部活動や生徒会・ボランティア活動を通じた、コミュニケーション能力・リーダー層の育成も課題である。また、海外修学旅行だけでなく、教育活動全般を通じて、多文化交流する機会を設け、広い視野を持った人材の育成が重要である。	○自律による自己管理と挑戦する意欲の喚起 ○特別活動の充実	①学校全体で、基本的な生活習慣の定着を組織的に取り組む。チャイムレスの活用による自立心の向上。 ②他校との交流を深め、挑戦する意識・意欲を向上させ、部活動を活性化させる。 ③生徒主体で学校行事を企画運営することで生徒の参画意欲を高める。 ④グローバル教育を推進し(台湾復興実験高級中学との交流、ユネスコのプログラム等)、国際社会で活躍できる人材を育成する。	①遅刻率1.0%未満。進んで挨拶する生徒75%以上。 ②部活動加入率90%。県大会以上の出場者・チームの増加。『庄和』の冠をつけた大会・交流会の実施 ③生徒会が中心となり発案企画した取組の実施。 ④多文化交流事業の実施。	①遅刻率1.0%未満は達成。挨拶については、生徒会の挨拶運動の効果もあり、登校指導で挨拶が返ってこない生徒はほとんど皆無。 ②部活動加入率85%。大風杯バレー大会が年末に開催された。 ③文化祭の後夜祭では生徒会企画主導のフォークダンスが行われ、機器のトラブルもあったが成功した。 ④復興実験高中・丹鳳高中の来校、相互交流。留学生が先生プログラムの実施。	B	・国外高等学校との相互交流事業を定着させる必要がある。 ・後期生徒会の挨拶活動が回数・人数とも増加している現在、今年度の後夜祭のような生徒会主体となる企画行事の実施が必要となる。 ・部活動参加率の向上を働き掛け続ける必要がある。
4	地元小中学校をはじめ、地域機関との連携を深め、本校の特色、魅力、生徒の良さを積極的に発信する必要がある。学校説明会の内容や学校案内配布方法を工夫し、本校の教育活動を広くPRするような生徒募集活動が課題である。HPやメディアも活用し、開かれた学校づくりを推進する。また、保護者、地域、卒業生と協働した行事の実施により関係者が誇れる学校にする。	○保護者、地域、卒業生との協働 ○学校情報の効果的発信	①学校の魅力発信の工夫・研究を行う。積極的に地域貢献活動により本校生徒の良さを地域にアピールする。 ②生徒・在校生保護者の協力による学校説明会を実施する。内容や実施時期を検討し、参加者数を増加させる。 ③HPやメディアを積極的に活用し、情報発信する。	①授業公開、体育祭公開の来校者数300名以上。 地域との交流、ボランティア協力30事業以上。 ②学校説明会の中学生の参加数合計1,000名以上。 ③HPの更新数100回以上。アクセス数平均700件/日。	①体育祭来校者350名、授業公開来校者若干名。 各種ボランティアへの参加は十分に目標事業数を達成。そのつながりから商工観光課から多文化交流事業への支援を受けている。 ②参加者数合計765名。授業公開には保護者を含め164名が参加。 ④IP更新380回超、645アクセス/日。学校概要動画もアップした。	A	・授業公開への来校者が増加しないのが問題である。今年度も土曜公開日を設けたが、純粋な一般来校者は5人未満である。これを評価指針とするかどうかの検討も必要である。 ・地域貢献事業への参加要請は年々増加している。生徒会と特定の部活動だけでなく全校的な取組みとして再構成する必要がある。

学校関係者評価
実施日 平成29年2月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理された学校であると感じられる、落ち着いた授業風景、ゴミが少ない等評価できる。(評議員)</li> <li>・グラントからは体育の授業での大きな掛け声が響いて活気が感じられる。(評議員)</li> <li>・プレゼンテーションの授業に熱心に取り組む様子は学習に対する意欲を感じる。(保護者)</li> <li>・英語検定、漢字検定についての指導は是非継続して進めてほしい。(評議員)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導も進めてはどうだろうか(保護者)</li> <li>・保護者の進路行事参加者を増やす工夫が必要なのではないかと。(評議員)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの生徒は挨拶をするし、遅刻もしない。さらに指導を続けてほしい。(評議員)</li> <li>・部活動に対する生徒の意識を変容させないと部活動参加者は増えないのではないかと。(評議員)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・庄和高校を知らない中学生のために生徒会も一緒にPRを行いたい。(生徒委員)</li> <li>・大学進学実績等をもっとPRしてほしい。(評議員)</li> </ul>

